

遠野 2018年7月13日

ビールの里をめざす岩手県遠野市のホップ畑で、遠野の将来を担う地元高校生も参加し「ホップつる下げ体験」を実施。



岩手のお客様が地元の誇りや良さを感じて元気になっていただく“コト”を提供する、キリンビール岩手支社の取り組み「岩手に乾杯プロジェクト 2018」※1の第二弾として、「ホップつる下げ体験」が開催されました。当日は岩手のお客様を代表して、ホップのつるを使用したホップ和紙の研究をしている、岩手県立遠野緑峰高等学校の生徒さんとキリンビールの社員30名が参加し、ホップ栽培の大切な作業であるつる下げを体験しました。

※1 岩手に乾杯プロジェクト 2018

第一弾 4月19日(木)「株開き・株ごしらえ体験」を実施

今後、元気に育ったホップを収穫する「ホップ収穫体験」、収穫したばかりのホップを凍結して使用した、「一番搾り とれたてホップ生ビール」の仕込み式・初飲み会などの開催を予定しています。



日本有数のホップ生産地「岩手県遠野市」では、夏になるとホップの鮮やかな「緑のカーテン」が出現します。華やかで豊かな香りや爽やかな苦みを生み出すホップは、ビールに欠かせない原料の一つです。ホップのつるはこの時期1日で20～30センチ成長し、最大12メートルまで伸びます。ホップ棚上部にホップが密集するのを防ぎ、ホップ全体に日光をあてる為、定期的に「つる下げ」の作業を行っています。参加者は、地元のホップ生産者安部純平（あんべじゅんぺい）さんからつる下げのこつを伝授していただき、7メートルほどの高さまで伸びたつるを、1本1本ワイヤーにそって2.5メートルに引き下げていました。



今回蔓下げ作業に参加した岩手県立遠野緑峰高校の生徒さんは、廃棄していたつるを有効活用しようと、ホップのつるを使用したホップ和紙を開発し、2014年日本学校農業クラブ全国大会で「文部科学大臣賞」を受賞、2018年には全国ユース環境活動発表大会にて100校の全国の高校生の中「環境大臣賞」、全国の企業・団体・小中高校生を対象とした低炭素杯2018でも1,167団体の中で最高峰の「環境大臣賞グランプリ」を受賞しました。現在は、ホップ和紙を使ったコースターやはがき作りなどで、遠野を訪れるお客様に楽しんでいただく「遠野ホップ和紙を育てる会」の団体が主催するワークショップをサポートしています。また、遠野市の土淵小学校の卒業証書は漂白剤を使用しないで作った特別なホップ和紙で制作。6年生は緑峰高校の生徒さんの指導のもと、自分の卒業証書を作るそうです。



つる下げ作業に参加した生徒さんは、「栽培に関わり、生産者の皆さんの気持ちを知ることによってホップへの想いが込められる。ビールを飲む人にも、原料のホップを作っている遠野の良さを知ってほしい。」と笑顔を見せました。遠野市とキリンはホップ栽培55年の歴史を持ち、地域の大切な資産である「ホップ」を活かして地域を元気にする取り組みを共同で行っています。遠野市×キリンの取り組みは、未来を担う子供達の「地元の誇り」へと繋がっています。

